

わたしのひいおばあちゃん

神河町立神崎小学校五年(当時学年) 宮本 知苗

わたしの家は八大家族です。ひいおばあちゃん、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、お姉ちゃん、わたし、弟がいっしょに住んでいます。

去年、学校で高れい者ぎじ体験の学習があったとき、実際に体験した友だちからは、手足が重くて動かしにくい、ふだんと全然ちがってとても歩きにくいという話を聞きました。ひいおばあちゃんは、今九十八才です。もうすぐで百才になります。ひいおばあちゃんは、仕事に子育て、畑や田んぼもしていたし、こしを二回骨折してしまっただから、背中が丸くなっています。少し前までは元気に歩くことができていたけれど、最近は転ぶことが多くなって、歩きにくくなってきています。だから、わたしや家族のみんなで、ひいおばあちゃんが歩いていたら、近くに行ったら手助けできるようにしています。ひいおばあちゃんがけがをしないように、家族みんなで手伝います。

ひいおばあちゃんは、お母さんが作ってくれる、みんなと同じご飯を朝昼夜しっかりと食べることができています。目がほとんど見えなくなっているのに、魚の骨や、何か取らないといけないようなものは、お母さんやおばあちゃんが外してから出しているけれど、わたしは、ひいおばあちゃんがみんなと同じものをしっかりと食べられて、いることをすごいことだと思います。本当はかむこともしんどいんじゃないかなと思います。

「おいしいわあ。」「ちぎちぎやなああ。」

と言って食べてくれています。お母さんはそれを聞くだけでもうれしくなるらしいです。

わたしや弟、お姉ちゃんが習い事や学校に行くとき、「行ってきます。」

と言うと、ひいおばあちゃんは元気に、「行ってらっしゃい。」

と言ってくれます。おはようやおやすみのあいさつもたくさんしてくれるので、わたしたちもとてもうれしいです。わたしたちがあいさつをする、ひいおばあちゃんはとても喜んでくれるので、わたしもうれしくなります。これからも続けていきたいです。

ひいおばあちゃんは体が痛いときがあるそうです。もう少しすると、ひいおばあちゃんは何かしようとしたりきにしんどくなることが増えて、できることがへってしまうかもしれません。でも、大好きなひいおばあちゃんのために、わたしたちはたくさんサポートをしたり、お話をしたりしてみんなで楽しく過ごしていきたいです。

【二〇二五年度 第二十号】

神河町人権文集「かみかわの子」より



高齢者のための国連原則 (1991 年)

- 自立(Independence)・・・食料、水、住居、衣類、医療を確保する
働く機会や所得を得る手段を持つ
- 参加(Participation)・・・社会の活動に加わり、知識や技能を若い世代に伝える
- ケア(Care)・・・・・・・・家族や地域社会の保護と介護を受ける
- 自己実現(Self-fulfillment)・・・自分の潜在能力を開発する機会を追求する
- 尊厳(Dignity)・・・・・・・・人間としての尊厳と安全を保つ
搾取や心身の虐待から守られる

